

## 第5回 恵那南地区中学校再編委員会 会議録

・日時 平成27年10月9日(金) 19:30～

・会場 岩村振興事務所 大会議室

・出席者 小中学校代表 春日井尚武、小板忠昭

こども園代表 千藤まゆみ

地域自治区代表 山本純、西尾公男、黄地尚幸、原田知典、安藤良一、安藤仁志、

川上貞夫、大島将官

中学校PTA代表 近藤祐司、伊藤昌治、成瀬浩司、横光基

小学校PTA代表 小川道義、川上渡、高井良三

こども園保護者会代表 小木曾耕司、伊藤寛隆、堀雄二、川上翔

恵那南地区中学校あり方検討委員会委員 鈴木峰夫

総合計画審議会代表 西村貢

地域自治区会長会議代表 樹神和昭

振興事務所長 西尾茂文、後藤光男、勝川甲子、三宅勝彦、熊谷浩

教育委員会 大畑雅幸

事務局 門野幸次朗、岡田庄二、土屋育代、安藤一博、西尾克子、梅村浩三、

石田祐一、山田耕司、度會将仁

・欠席者 地域自治区代表 阿部道長、堀真人

中学校PTA代表 松下雅昭

小学校PTA代表 加藤信之、渡邊大剛

こども園保護者会代表 森井清、成瀬一

恵那南地区中学校あり方検討委員会委員 中垣貞好

行財政改革審議会代表 柘植麻美

・委員会内容

1. 開会挨拶 委員長、教育長

2. 議事

委員長 : それでは、議事に入ります。

(1) 望ましい学校環境について

事務局より資料に基づき説明

事務局 : 本日のグループ討議について説明します。再編後の学校をどうするかについて、前段には既存の学校を使うのは当然のことではありますが、新築校案も考えていく

必要がある。グループ討議では、各学校の利点、課題を付箋に学校名、意見を記載し、貼り付けていただきたい。出された意見については、既存の中で利用できそうな学校があるのかないか議論していただきたい。本日は、ここまでの内容をお願いしたい。皆さんに書いていただいた意見を基に、次回の会議では、再度グループ討議を行い、利用できそうな学校がある場合、ない場合を理由も含めて報告していただきたい。この結果により通学方法、通学時間を議論していきたいと考えている。

## (2) グループ討議

委員長 : それではその他の議題に入ります。先程発言したい委員がみえた。委員会は設置要綱に基づいて、委員会が設置されている。その趣旨に合った発言、提案をお願いしたい。

委員 : 前回、上矢作でアンケートを書いてもらった。期待することは、教育委員会で説明した内容である。心配なことは、部活の数は増えるが、通学時間が60分と長い距離を通わなければいけない。集団が増えるということで、いじめのことが心配だという意見が出ている。今話しているハード面は諮問の内容に関連はするが、先程の心配事やどういう学校をどう作っていくのか課題がある。こういった難しいところを新しい学校でどうクリアしていこうと考えているのか、教育の内容について話し合いがないので、ぜひお願いしたい。ふるさと学習では地域に根づいた教育を大事にしてきた。今後どのように継承されていくのか。こういうことをどこかで話がしたい。不安や疑問を地域で説明されているようだが、出た意見を共有して議論していかないといけない。ハードな面ばかり話すのではなく、実際に学校を創っていく上で、学校の教育内容を話して不安や疑問に答えながら目指していけば良い。今後は、今までの意見を踏まえて進めていただきたい。

委員長 : 今後の計画を、事務局から説明してください。

事務局 : 今回の諮問は統合の時期、統合の場所について答申を年度末にお願いしたい。

どんな学校にしたいかは、再編になれば統合まで3、4年はかかると思う。その中で詰めていくことが沢山ある。そこで、じっくり話をしていけば良いのではないかと考えている。いじめなどの具体的なことは、今の小、中学校でも大きな課題である。起きたとき、職員は全力で保護者の方と協力して解決していこうと努力している。今後も同じような体制でいきたいと考えている。

委員 : 同じような体制ということだが、今は小さな学校で担任の先生も細かく見ていただいていると思う。大きな学校になったときに目が届かなくなることが心配という意見がある。子ども達の一番難しい時期にどんな影響を与えるのか想像

がつかないなど親は心配があるので、この場で具体的なことを議論して、わかるようにしてほしい。方法や時間だけ議論すれば良いという事ではないと思う。

委員長 : そのことも必要ではあるが、教育委員会からこういうことを再編に向けて議論してほしいということなので、まずはしっかり議論する必要がある。先程言われたことも重要なことであるので、教育委員会としては次の段階で議論していくことにしている。

委員 : この会は子どもと地域のための会である。再編委員会は行政が一方的に進めるものでなく、住民の理解を得ながら進めるということ。今までそれができていないし、地域の意見は何も上がってきていない。メンバーは地域の代表なので、地域の意見を基に話さなければならないが、何一つ話されていない。地域でも、親から出ている不安や心配はどうなったか聞かれるが何も答えられない。他の地域はどうか。

委員 : 地域で話をする時間がない。意見を吸い上げる時間がない。そういう点が心苦しいので、意見を吸い上げる時間がほしい。

委員長 : この会では、そこまで出来ない。教育委員会に地域への説明などをお願いする。

委員 : 今日ハード面ですが、望ましい学校環境のソフト面はいつはなされるのか。

事務局 : 串原のPTAからも質問が出ていますので、回答により説明したい。

委員 : 確認ですが、この会は諮問にあるように統合する時期と場所について検討することが趣旨だと思っている。それが決まった後に、準備委員会のような会によりソフト面を検討するということ。今年度は時期と場所。それ以降にソフト面を充実させるということで理解してよいか。

教育長 : そのとおりであるが、準備委員会という名前は決定してはいない。答申を基に教育委員会でも論議をさせてもらうことになる。平行して、地域の方々にも説明し、一歩でも半歩でも進んでいきたい。

委員 : この会でソフト面まで議論するのか不可能だと思う。諮問にある、時期と場所をしっかりと議論し、ソフト面は来年度につながる形を残すということをやっても良いと思う。流れをはっきりしてもらえば説明ができる。

事務局 : ソフト面については、各地区で行われていること、大事にしていることをどう折り合いを付けていくのか。このことで話し合いを持ったときに、その学校が統合も決定していないのに話ができるかという難しいと考える。委員会で場所と時期を検討し決めたときに、いろんな議論をして除々に準備していくものだと考えている。場所と時期が明確でないところで議論しても進んでいかない。保護者はいろんな不安を持っている。統合する、しないに関わらず、小学校から中学校に

進級させる保護者やこども園の保護者から、どんな中学生になるのか、どんな学校で学べるのかなど不安はあると思う。中学校は大人が手を入れるのではなく、子ども同士でかかわりあっていくことが重要である。それをメリットと考えたときに、通学時間に換えがたい、大勢の中に居る良さがあるため統合を進めていこうとしている。ハード面だけではなく、ソフト面も今後議論することになる。今議論していく上では、場所・時期の答申をお願いしたい。

委員：この諮問あるように、まずはその内容を先に行うことが本来の役割である。しかし、その中で少しでも魅力ある学校をどう創り上げていくかは話しても良い。先の見えない話は不安になるが、諮問の内容は決めていく。地域の文化等について、どの辺で議論されるかは、やはり示されないといけない。あり方検討委員会があつての諮問なので、重く受け止める必要がある。

委員：委員は、保護者や地域の方を代表し、その意見を反映することだと思っている。恵南の中学校を一つにするのは市町村合併に次ぐ大きなこと。この状況で委員会が終わっては責任が取れない。どの地域も同じだと思う。

委員：恵南の学校を回って意見を見たが、いま本当に統合が必要と思われるとは思えない。

委員：今議論されているが、この会は諮問について答申の内容を審議する場である。地域として不安をかかえている人がたくさんいる。不安を取り除いてもらわないといけない。教育委員会も理解のないところは丁寧な説明を平行して進めるなどして理解を得ないといけない。

委員長：いろんな意見ありがとうございました。教育委員会でも検討していただき、会の回数を増やすなどして検討していきたい。

副委員長：皆さん各団体の代表ということから、不安や意見もあると思う。昨年度のあり方検討委員会に出られた方は見えないということだが、一年間議論された中での提言書である。このことをしっかり認識いただきたい。グループ討議を行っていただいた。各地区の平等性を認識した上で位置を決めるとき、既設校舎も含めて議論するため、メリット、デメリットについて意見を出していただいた。次回は、今の学校が利用できるか、新築を考えていくのか意見をいただきたい。

21：27 終了